（別紙3）　　平成　26　年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0990500092		
法人名	(有)ケアシステム		
事業所名	陽だまり		
所在地	栃木県鹿沼市西鹿沼町1018-1		
自己評価作成日	平成26年12月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人　栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6　とちぎ福祉プラザ3階　（とちぎｿｰｼｬﾙｹｱｻｰﾋﾞｽ共同事務所内）
訪問調査日	平成27年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域に根付く施設を目指して、地域の皆様や近隣の施設との交流を図っています。地域、施設のイベント参加により、、より親しみを持てる環境作りを重視しております。認知症があっても、より自分らしい生活が出来る環境を提供しております。訴えが無くても、身体機能が低下していても、何らかの対応により、自己表現が出来る。思うところに行くことが出来る、思っていることを理解してもらい、安心して生活が出来るGH作りを目指しております。外出機会を増やし、社会参加により安定した生活の中にも、愕きや喜びなど、表情作りにも取り組んでいきたいとの目標はあります。小規模との併設になっており、日中は、共に施設内を行き来しながら、お茶を飲んだり、話をしたりなど、交流を深めています。月1回ラーメン屋さんが来て美味しいラーメンを食べさせてくれるのも、皆様の楽しみです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

設立して4年目となる事業所である。現在、グループホームを増設中で規模の拡大を図っている。
地域との付き合いを大切にした取り組みをしている。管理者自ら近所に出向き、情報の交換を行っている。先月、グループホーム増設の上棟式を行ったが、地域の方の協力や管理者が所属している法人会の方々の協力を得て大々的に開催している。また災害時対応に関しては地域との双方向的な協力関係が築かれている。
年々利用者が重度化しており、食事、排泄や更衣等の身辺介護が増大している。また、意思疎通も困難な方も増えている状況であるが、理念である「やさしく、わかりやすく、根気よく」を大切にして声なき声を聴こうと支援に取り組んでいる。
尚職員は経験豊富な人、浅い人、様々であり、医療の必要性が高い利用者や終末期を迎える利用者への支援に対しては、全ての職員が不安なく支援を行えるように対応マニュアル等の整備が必要である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

一般社団法人栃木県社会福祉士会

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼を活かし、理念の内容確認福祉の心など再確認している。	毎日、朝礼時に理念である「やさしく、わかりやすく、根気よく」を再確認している。さらに、利用者への言葉遣いや接し方及び態度等を振り返り、毎日の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や施設など、双方のイベントがある時は、声かけしながら双方参加している。今回日吉町のお囃子で100年集を作ることになり、陽だまりも毎年ボランティアでお世話になっていることから、コメントを載せて頂くなど、地域の重要な催しものにも声を掛けて頂けるようになった。	管理者自ら近所へ出向き、地域の方と交流している。先月、グループホーム増設の上棟式が行われた際、地域の方や管理者が所属している法人会の方々の協力を得て、昔ながらの“建て前”を行うことができた。利用者も近くで上棟式や餅まきを見ることが出来、大変満足した様子が写真に収められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	陽だまりのイベントの際には、声かけしてきて頂くなどする中で、認知症の話をしたり、近隣の困っている話を聞いた際は、訪問したり、話を伺った人に対応方法を伝える等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月に開催しており、その際は困っている事や、対応策など伝え、他の方法などないか検討して頂く事もある。	2ヶ月に1回、併設されている小規模事業所と一緒に開催している。事業所の現状報告や、市介護保険課に連絡が入った苦情について、内容説明や改善方法の報告を行っている。また、会議でもどの様に対応すれば良いのか参加者からアドバイスを貰っている。会議を通して災害時の協力体制を確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、内容を確認して頂いたり、利用者様の問題が生じた時は、訪問やTEL等により、早急な対応と、問題点の理解をして頂く。	困難ケースと思われる時や胃瘻の方の受入等、分からないと思う時はどのような対応をすれば良いのか担当者に相談をしている。運営上の対策やアドバイスを適宜貰いサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修や日常業務の中で、身体拘束の内容を伝え、対応等を話している。本人の思いや、要求を話が出来なくても汲み取る力が出る様、職員には、理解する方法、一つの思いから切り替えられる方法など、会話の中からも探していくなど、全体研修や、朝礼などでも必要時話をしている。	全体研修や日頃の業務時に身体拘束について再確認を行っている。管理者は職員に対して、今、利用者が何をしたいのか、やりたいのかを注意して見守るように話をしている。理念の1つである、「根気よく」を実践するように指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	どうゆうことが虐待に繋がるかなど、話をしている。日常業務中でも、出来るだけ管理者が中に入り職員の動きを把握しながら、その都度説明している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あすてらすや後見人制度などを利用している方もおり、運営推進会議では、必要時報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時、内容変更時、にはその都度説明している。又、家族からの質問や疑問点にもその都度内容説明し、細かに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進介護の席で、新しいご利用者様の家族様より、話を伺ったり利用してみての経過など伺っている。ケアマネや職員が訪問時使いずらさがないか、プランの変更が無いか確認している。	家族が面会に来た時や電話を掛けた時に話を聞いている。聞いた意見は申し送りノートに記録され全職員が周知できるようになっている。検討された意見は次回家族が来所する時までに家族にフィードバックするようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修時や、時々個別に行う話の中で、本人の思いや、悩み、ストレスの原因、仕事に関する不満など聞いている。	全体研修時や管理者が職員と個別に話す機会を設け意見や要望を聞いている。12月の全体研修では職員の率直な考えや意見を、管理者や代表者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場、福利厚生のしっかりした施設を目指して頑張っています。昇給も少しずつだがあげており、賞与も今以上に頑張りたい。パートから正社員に移行し、安心して働ける職場に向けて動いています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社順に、必要に応じ、資格を取る為の研修に行っています。施設外の研修参加により、自施設の良い面や改善面を発見できるよう説明しています。又、レクレーション研修も順次参加希望しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員は、研修参加により他施設の職員とコミニュケーションを図ることにより、同じ悩みや、仕事上の解決策など話しながら交流を深めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話時間を十分にとり、本人の思いや出来る事、出来ない事を理解し、ご本人様がこれから先どうしたら、自分らしく楽しい生活が確保できるかを話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族様の負担負担軽減に努めていくが、あくまでも、ご本人様が主になる事での家族様の不安軽減を図っていく。電話等もまめにしながら、施設を利用していくことでの不安感を和らげる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つの事にこだわるのではなく、大きく問題を見状況によっては、市やボランティア、近辺への働き方もし、必要なネットワークを作っています。他のサービス機関との連携を図り情報交換などしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りにより、本人の残存気機能を活かし、自立支援に繋げています。出来る限り見守りを多くし、やってやらずに、動くを待つことの重要性を日常的に職員には伝えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の際は家族様に極力対応をお願いしています。送迎等は希望があれば、病院まで対応していますが、担当医とのやり取りは家族様にお願いし、家族様より内容を伝達して頂きます。現在輸送サービスの申請手続き中です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や、近隣の方が遠慮なく来られるよう、来所された皆様にはその都度説明しています。訪ねて来られた方に、ご本人の昔の生活状況を伺うこともあり、情報は職員が共有しています。	利用者が重度化しており、自分から言葉で要求を伝えられない方が増えている。現在、理容師さんや美容師さんに事業所に来てもらいカットしてもらう等、来所してもらえるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の動きや、言葉に気を配り、状況を把握することで、速やかにトラブル予防が出来るようにしています。会話時は時に退であったり、複数の方と話をしたりしながら、和やかな雰囲気作りをしています。出来るだけレク参加を声かけ、楽しく身体を動かせるよう支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、時に電話をしたり、近隣の方がいた時は、状況把握などしています。民生委員の方と常に連携を持ち、情報把握をしています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉が発せられなくても、目や顔の表情、ジェスチャーを交え、本人が理解しやすい方法を取っている。頷きや状態を把握することで、本人の今の思いを受け止め、時間がかかってもその人の要望に対応していくようにと勤めています。	利用者一人ひとりの思いや希望を大切にしている。自分の意見や希望を伝えられない利用者については家族に生活歴を聞く等、時間をかけて意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話の中や、家族様との会話の中で、本人の生い立ちや生活歴など確認し、本人との会話の中で、確認することもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人体力や身体状態等を把握し、離床時間を拡大している。座位時間による下肢の浮腫防止を図り、時には、足浴をするなどしている。レク参加により、ADLの低下予防、意欲減退防止に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が外部研修に出た際は、相手先のやり方を学び、実践したりしたが、結果が出ない内にやり方を元に戻すなどになりました。	介護計画は利用者・家族に確認を行い、各職員の意見を参考に作成されている。モニタリングは適宜行われており、随時、申し送りノートや個人記録に記載されている。しかし、検討された課題等の記録や整理方法が不十分であると考えており、外部研修時に学んできたことを活かすように検討している。	計画表からモニタリングまで一連の流れが分かる書式があると効率的でより一層の支援が出来ると思われる。他事業所での研修を活かし実践していくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が各々がしたサービス内容や、本人との会話の中で重要と感じたこと、家族様からのお話など、大切な話や、重要事項はサービス内容の変更などは必ず、記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況、状態により、プラン内容の変更、個別対応により、外出を増やし気分転換をしたり、家庭的な環境の基、本人希望があれば、入浴時間の見直しなどしていきます。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる日本舞踊やマジック、お囃子、三味線などにより、生活の楽しみを作っています。又、希望によりラーメン屋さんのボランティアにより、お店で食べると同じような味を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時の話し合いで、本人、家族様の希望があれば、係りつけ医を変えることなく継続出来る事を説明しています。	数名の利用者は今までのかかりつけ医を継続している。職員が通院支援をすることもあるが、基本は家族対応としている。通院の際管理者は普段のバイタルや生活の様子をまとめたものを家族に渡す配慮をしている。職員が通院支援を行うと普段の業務に支障が出ることもあり、今後、輸送サービスを検討している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はバイタルチェック時の変動時、ご利用者様の変調時、をその都度看護師に報告、指示により対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の経過把握、退院時のカンファレンスにより、退院後の受け入れの不可、退院後の対応など細かに情報を取り、退院後は速やかに対応が出来るよう連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、介護保険更新時、退院後に終末期についての話し合いや重度化の対応を確認し、今後のサービス方向性を確認している。	家族には入所契約時に重度化した時や終末期について口頭で説明を行っている。事業所としては出来るだけ重度化しても継続利用が出来るように取り組んでいる。	緊急時の対応として、救急車が到着するまでの間、勤務している職員で出来ることを貼り出す等、全ての職員が不安なく勤務出来る様に対応マニュアル等の整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥時の対応、緊急時のAEDの使用方法など、ホール内に掲示したり、研修を利用し消防隊員より指導を頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施、運営推進会議時の協力体制の確認をしている。特に近隣にある施設とは、連携を密にし、双方の災害時、又は地域での緊急時に対応出来るよう話し合っている。	年に2回、小規模事業所と合同で避難訓練や消火訓練を実施している。火災時には消防署から地域の協力関係者に連絡が入るように取り決めが出来ている。また災害時には、当事業所が避難場所になる等、地域との相互協力関係が出来ている。備蓄についても十分確保できている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様との会話や対応に注意し、個々を尊重し、相手を傷つけない対応をしていくには、どうすればよいかなど、内部研修や、講師をいらして言葉使い、動作など自分達が日常的にとっている態度を振り返る機会を作っています。	一人ひとりの尊厳を大切にし、特に言葉遣いは「です・ます」を基本に、馴れ馴れしくならないように配慮している。排泄介助や更衣の介助等、大きな声を出さない様に話す等の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかけを十分にとり、話しやすい環境作りをしている。相手の思いを受け入れ、無理が無いように希望に添った対応が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自然な生活の流れの中で、無理なくその人に合った一日の生活を提供しています。時に町の駅散策、ドライブなど、希望があれば外出機会を作ったり、昔話を伺ったりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じような服ばかりではなく、時には明るい色に変えて頂いたり、お化粧をしたり、マニキュアをするなど、女性としての楽しいひと時提供しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ることは難しくても、お芋の皮むきを手伝って頂いたり、テーブルを拭いたり、消毒したりと出来る範囲内の協力を声かけしている。	現在、利用者が重度化しており、刻み食やミキサー食を提供し安全に食事が出来ることを優先している。軽度の方には、小規模の利用者と一緒にお喋りをしながら食事を楽しめる様に外食計画等の配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝礼の時に水分確保の重要性と、必要量の確保、水分摂取できない人の水分の取り方など話し合い、日に1500cc～2000cc量を確保するようチェック表を確認して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯ブラシは誘導、指示により行っている。義歯を外し口腔内の清潔を図っている。スポンジによる歯肉や頬の内側のマッサージ等など職員介助により行っている。全体研修時、外部講師をいらし、口腔ケアの重要性を学んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声かけや定時のトイレ誘導により、失禁回数を減らし、トイレ排泄が継続できるよう支援している。記録を見ながら、個々の排泄パターンを把握し、その人に合った介助をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し定時排泄を行っている。また、利用者の表情や仕草も見落とさないように常時、心がけている。失禁してしまった場合でも、他者に気付かれないように交換の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により食欲不振や、腹痛、気分不快にならないよう、排便チェックにより、、牛乳を飲んで頂いたり、繊維質を多く摂る、身体を動かすなど、食事面を見直したり、座位時間を少なくし、動く時間を頻回にするなど、自然排便が出来るようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人が希望すれば、入浴時間の調整もします。睡眠時間に合わせたいなど話が合った時は、夜の入浴も出来ます。	入浴を嫌がる利用者に対しては、無理強いをせず時間帯を変更したり、誘い方を工夫する等している。車椅子を使用している利用者等、職員１人では危険と思われる場合は職員２人で対応し、安全に入浴が出来る様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後と短時間よお子になる人もいます。椅子に座ってウトウトするよりは、ベットで横になって頂き、靴るぐ時間も作っています。その際は、下肢を少し上げる等、浮腫予防も行います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時経過観察と看護師への報告、主治医との連携により、病歴と服薬状態を観察します。薬を内服していても改善が見られない場合は、看護師に連絡し、担当医と話し合ったり、薬の変更の指示を頂きます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅生活時の様子を伺ったり、生活の様子の中での趣味や、楽しみごとを把握し、本人と一緒に楽しみことを作っていきます。出来る事はして頂きながら、気分転換、外出など身近に出来る事から声かけしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町の駅散策では、食事をしたり買い物をするなど職員見守りにより行っている。介助を要する人は、職員が付き一緒に同じ物を食べたりしながら、施設の感覚とは違う物を感じて頂くなどしている。	小規模事業所と合同でドライブ等の外出を行っている。日常的な散歩等は、現在のグループホームの現状では職員の人数や重度化した利用者の増加でなかなか出来ていない。しかし、新しいグループホームの完成時には、事業所を回廊出来る様にデッキを造る予定であり、今までよりも散歩が出来やすくなることが期待できる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物の際、同行により買い物が出来たり、施設の自販機で飲み物を買うなどすることもあったが、現在では、職員まかせになっている方が殆どになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける事は困難だが話をすることはできるので、職員がかけて本人に代わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に季節の花を飾ったり、折り紙を折り壁に貼る等、季節感を感じる様な環境作りをしている。居室、ホール内は静かな生活の場の雰囲気になっている。畳にコタツを設置し、日中横になる等、家庭的な雰囲気作りを重視している。	玄関やホールには季節の植物が飾られており、季節感を味わえる工夫が見られる。ホールは日差しが降りそそぎ冬でも十分な温かさが感じられる。大きなソファーがあり、そこで寛ぐ利用者の姿が見られる。季節の行事に合わせて正月飾りやクリスマス等、利用者と職員が作った作品を飾る等、家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内とは別に、玄関前に緑や花が多く設置されているホールがあり、ご利用者様は時々家族様、来客時はその場で、お茶を召し上がる等、落ち着いた環境の中で、一時の楽しい時間を過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の説明段階で、普段本人が使っている物、慣れ親しんだものを、少しでも多く持ってきて頂くよう説明している。アルバムや思い出のあるものなど置く事により、本人が安心して生活できる環境を作っていく。	居室には自由に使い慣れたものを持ち込んでいる。押し入れがある為、押し入れ用の収納ボックスを持ち込む家族が増えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、避難等の掲示、出来るだけ現在位置が分かるよう、職員が声かけしながら慣れるまでの対応をして行く。廊下等も常に明るくし、移動時危険回避が出来るよう見守りや、声かけを行っています。		